

---

# 挨拶について臆病な私の考察

花倉 小雨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

挨拶について臆病な私の考察

### 【Nコード】

N6413N

### 【作者名】

花倉 小雨

### 【あらすじ】

タイトル通り。  
登校中の暇潰し。

先ずは私の理想。

おはようございますに込めた少しの礼儀。

ありがとうございますの感謝の気持ち。

お願いしますという信じる心。

ありとあらゆる挨拶に、ひとつひとつ意味を問う。持つことを願う。

しかし

私はいつからか、挨拶をしなくなった。

それは単なる虚無感の慣れだと逃げていた。意地でも自分を正当化していた。

私が挨拶をしようが、真面目に生きようが、答えを求めてはいけな  
いんだと、とある方に教えられた。

ならば挨拶は意味のない行為で、言葉は道具に過ぎないものだろう  
と、次第に慣れていった。

それでもはじめは、答えのない寂しさを知った私は、どうしても腑  
に落ちないものを感じた。

今では少しだけ滑稽に思う。

気付いたことは、

私は、誰に挨拶をしているつもりだったか。

おはようございますの意味を知らず

ありがとうございますに義務を感じ

お願いしますに当てはまった便利さ

それなら、私の考えは今までのものを覆せるし、答えを求めることが如何に無意味かを納得できるというものだ。

私は、向き合おうと思った。

本当に挨拶として意味を求めたい。

私は挨拶をコミュニケーションとして、改めて考えたい。

礼儀もあるがそれだけでなく  
心からの挨拶を。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6413n/>

---

挨拶について臆病な私の考察

2010年10月11日00時12分発行